

## 授業の考察②<中学校>「怒りと上手に付き合おう」

### 考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、中学校5時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

#### 授業の考察の視点

- |   |                |
|---|----------------|
| Ⅰ | 本時のねらいを達成できたか  |
| Ⅱ | 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

### Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

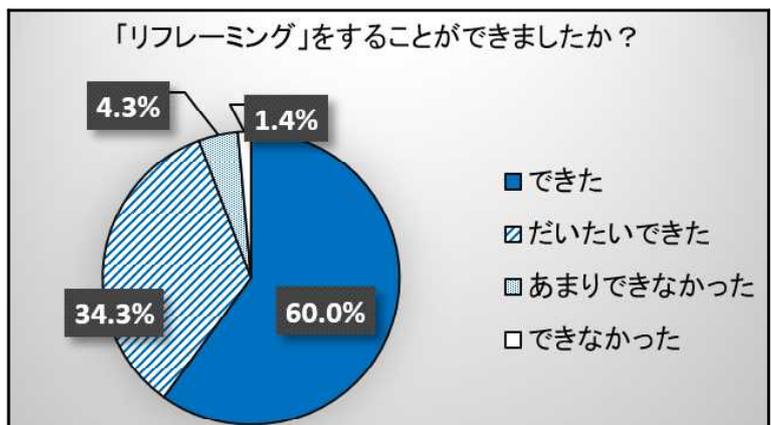
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒りのコントロールの仕方として、振り返りシートの質問項目「怒りにつながる考え方から怒りにつながらない考え方にリフレーミングをすることができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートの質問項目「深呼吸、カウントアップ、自分への声掛けなどの自分や周りの人を傷つけない怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること</li> </ul>    |

#### 1 怒りのコントロールの仕方として学習したリフレーミングをすることができたかについて

○振り返りシートの「怒りにつながる考え方から怒りにつながらない考え方にリフレーミングをすることができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は94.3%でした（資料1）。学級のほとんどの生徒がリフレーミングをすることができました。リフレーミングについてスライドを使って説明をしたり、リフレーミングをした考え方を共有したりしたことで、理解が深まったと考えられます（次頁資料2）。



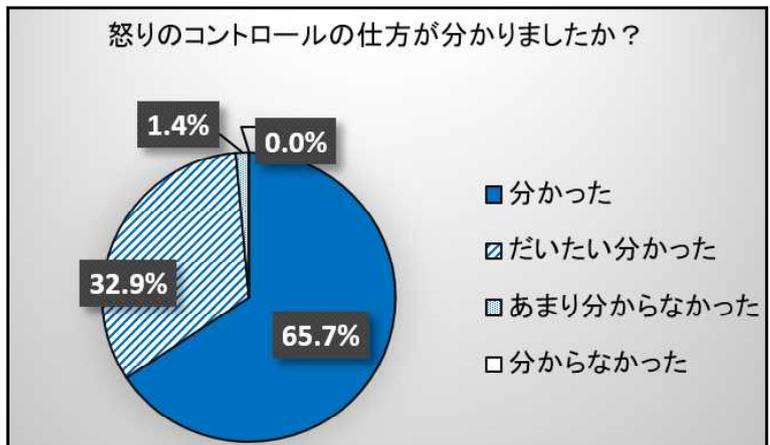
資料1 「リフレーミング」をすることができたかについてのアンケート結果（振り返りシートより）

|  |                               |  |
|--|-------------------------------|--|
| <p>③ 移動教室に一緒に行こうと約束をしていた友達が、他の人と行ってしまいました。</p> | <p>約束を守らないなんて。<br/>裏切られた。</p> | <p>・他の人にさそわれて<br/>うしろことわれなかつた<br/>たけ。</p>          |
| <p>・約束を忘れていた。</p>                              |                               |  |
| <p>③ 移動教室に一緒に行こうと約束をしていた友達が、他の人と行ってしまいました。</p> | <p>約束を守らないなんて。<br/>裏切られた。</p> | <p>・話が盛り上がっていて<br/>忘れていただけだ。<br/>なんか理由があったのかも。</p> |

資料2 生徒が考えたりフレーミングの例(ワークシートより)

2 怒りのコントロールの仕方の理解について

○振り返りシートの「深呼吸、カウントアップ、自分への声掛けなどの自分や周りの人を傷つけない怒りのコントロールの仕方が分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は 98.6%で、ほとんどの生徒が怒りのコントロールの仕方について関心をもちながら、その理解を深めることができました(資料3)。



資料3 怒りのコントロールの仕方の理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○学習した怒りのコントロールの仕方を練習していく中で、これまで自分が行っていた怒りのコントロールの仕方を振り返り、自分に合った方法を見付けることができました(資料4)。

深呼吸をしてリフレーミングをし考え方を試してみる。  
その場から離れて、冷静になって考えてみたり、深呼吸をする

資料4 使ってみたい怒りのコントロールの仕方についての生徒の記述(ワークシートより)

以上のことから、生徒は怒りのコントロールの仕方についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

II 次時につながる内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

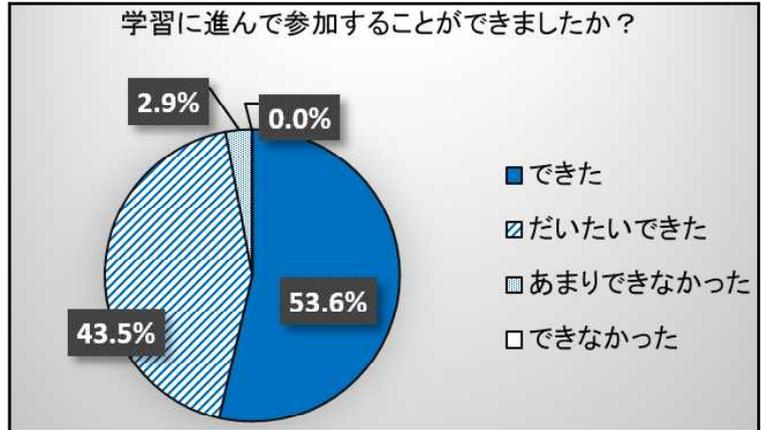
次時につながる内容であったかを、Iの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかどうかを判断する目安

|   |
|---|
| ・ 振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること                     |
| ・ 振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、怒りをコントロールすることについての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること |
| ・ 振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること             |

1 学習に進んで参加することができたかについて

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は97.1%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料5）。

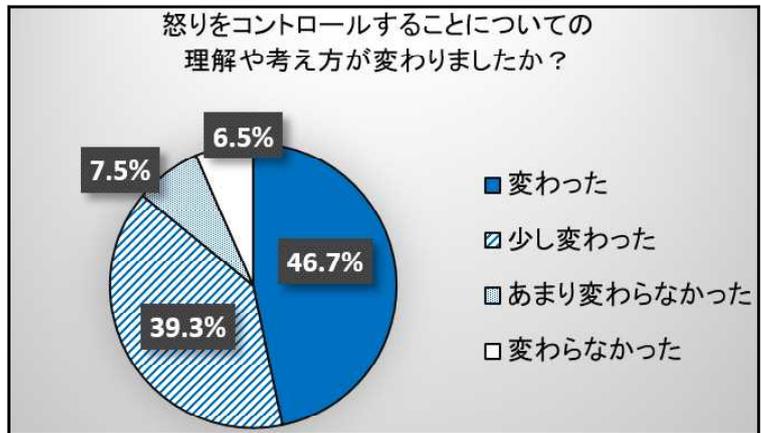


資料5 学習への参加状況についてのアンケート結果（振り返りシートより）

2 学習の前後の怒りについての考え方の変化について

○振り返りシートの「怒りについての理解や考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は86.0%でした（資料6）。

その理由として、自分の考え方について振り返ったり、新しい怒りのコントロールの仕方を知ったことを挙げたりしていました（次頁資料7）。一方、「あまり変わらなかった」「変わらなかった」と回答した生徒の中には、その理由として学習したコントロールの仕方を既に行っていたことなどを挙げていました。学習した内容が再確認の意味をもつ生徒もいることが分かりました（次頁資料8）。



資料6 怒りをコントロールすることについての理解や考え方の変化についてのアンケート結果（振り返りシートより）

今までは、怒りにつなげる考え方がしかしていいから、だから、  
 いつものコントロールの仕方があって、方法をたくさんあるから、  
 してみようと思っ

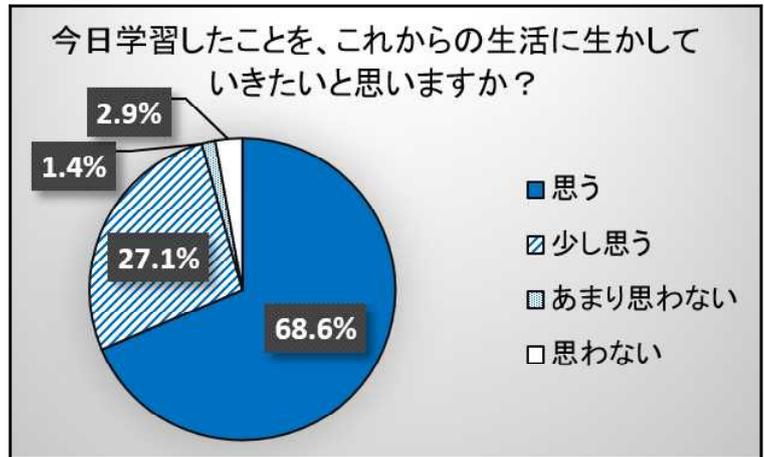
資料7 怒りをコントロールすることについての理解や考え方が「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の記述(振り返りシートより)

実際にやっていてから

資料8 怒りをコントロールすることについての理解や考え方が「変わらなかった」「あまり変わらなかった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

3 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は95.7%でした(資料9)。ほとんどの生徒が、自分に合った怒りのコントロールの仕方を見付けたり考えたりしたことが分かりました(資料10)。



資料9 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

今日の学習で、友達に何かされたら怒りつなげる考え方でなく、  
 怒りにつなげない考え方をしてみようと思いました。怒りにつなげ  
 る考え方をしてしまうと、友達関係が崩れてしまうので、そ  
 ういふことをうまくコントロールしながら友達と上手くやってい  
 きたいと思いました。

「フレキシブル」は、とても、使いやすく、おもしろい教材だと  
 思いました。私は、色々な教材があり、怒りをコントロール  
 する上で、役に立ちます。みんなは、それぞれがそれぞれ、怒りを  
 コントロールして、おもしろい教材を使い、友達とよく  
 話し合おうと思います。

資料10 本時の学習全体を通じた生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。